

長岡市民合唱団 第29回定期演奏会



芸術文化振興基金助成事業

Gioachino Rossini Stabat Mater

～フルオーケストラ伴奏による新潟県初演～

2016.10/16 (日)

13:30開場/14:00開演

ロッシーニ

「スタバト マーテル」

悲しみの聖母

「ウィリアム・テル序曲」

邦人編曲によるロシア民謡

混声四部合唱

「ともしび」「カチューシャ」

「トロイカ」「アムール河の波」

指揮：船橋 洋介
副指揮：草川 正憲
ソプラノ：石上 朋美
メゾソプラノ：中島 郁子
テノール：新海 康仁
バス：ジョン ハオ
コンサートマスター：大関 博明
ピアノ：齋藤 淳子
演奏：長岡フェニックスオーケストラ
合唱：長岡市民合唱団

長岡リリックホール (コンサートホール) 前売・当日¥2,000(全席自由)

主催 長岡市民合唱団 <http://www.nagaoka-chorus.jp> お問い合わせ 監物(けんもつ) 090-3142-3918

後援 長岡市/長岡市教育委員会/長岡市音楽文化協会/(公財)長岡市芸術文化振興財団/新潟日报社/長岡新聞社/
ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ/FMながおか80.7

プレイガイド

長岡リリックホール/ながおか市民協働センター(アオーレ長岡西棟3F)/文信堂書店(長岡駅ビルCoCoLo内)/柏崎市文化会館アルフォーレ

長岡市民合唱団 第29回定期演奏会



指揮 船橋 洋介 Yosuke Funabashi

東京音楽大学ピアノ科卒業。同大学指揮研究科修了。「ブラハの春」をはじめ数々の国際コンクールで入賞。特に声楽・合唱付き作品で深い洞察力を発揮し、数多くのステージやオペラ制作に携わる。2008年にはペーテル・ブノワ《盛儀のミサ》を日本初演しペーテル・ブノワ財団より名誉称号が授与された。ブラハにてモーツァルトのレクイエムを指揮し成功を収めるなど活動範囲を海外にも広げつつある。2012年にはカール・ジェンキンス《平和への道程》を全曲指揮。立案から4年をかけて実現へ導いたその情熱は、演奏においても「合唱を懸命に整え、かつ高みに導かんと奮闘する船橋のタクト。」と高く評された。都響、東京フィル、東響、大阪フィル等への客演を始め、ますますの活躍が期待されている。現在、宮城学院女子大学特任准教授として後進の指導も行っている。



ソプラノ 石上 朋美 Tomomi Ishigami

東京藝術大学音楽学部声楽科首席卒業、同大学院修了。第40回日伊声楽コンクール第2位および歌曲賞、第35回イタリア声楽コンクール金賞、またイタリアにて第10回オペラ国際コンクール第2位同時にマンチネリ歌劇場でのデビュー権を獲得するなど、国内外多数のコンクールにて受賞を重ねる。文化庁海外派遣研修員、野村文化財団芸術奨励学生としてジェノヴァ、トリノに留学し、様々な劇場のオーディションに合格。イタリアにて『フィガロの結婚』伯爵夫人でデビュー後、《ラ・ボエーム》ミミ役、《修道女アンジェリカ》、《トスカ》、《蝶々夫人》タイトルロールなど多くのオペラで主役をつとめ好評を博す。日本では二期会オペラ《マクベス》(P.コンヴィチエニー演出)マクベス夫人役をはじめ、新国立劇場《蝶々夫人》タイトルロールなどを演じ活躍中。2015年8月にオペラアリア集『VOCE dell' anima ~ある愛の歌声』をリリース。国立音楽大学非常勤講師。長岡市民合唱団声楽アドバイザー。二期会会員。



メゾソプラノ 中島 郁子 Ikuko Nakajima

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程独唱科修了。文化庁海外派遣研修員としてミラノに留学。ミラノ市立音楽院等で研鑽を積む。第72回日本音楽コンクール・オペラ部門第2位、シエナ市第14回ロッカ・デル・マチエ国際声楽コンクール第2位、ヴェルチェリ市第56回ヴィオッティ国際音楽コンクール声楽部門第3位、第15回R.ザンドナイ国際声楽コンクール特別賞等、国内外の国際コンクールに入賞。オペラでは、2012年に東京二期会オペラ公演ヴェルディ《ナブッコ》フェネーナ役にてデビュー後、モーツァルト《フィガロの結婚》マルチェッリーナ役、ヴェルディ《イル・トロヴァトーレ》アズチエーナ役、《椿姫》アンニーナ役等に出演。コンサートでは、バッハ《口短調ミサ》、モーツァルト《レクイエム》《ハ短調ミサ》《戴冠ミサ》、ロッシニ《小荘厳ミサ曲》、ヴェルディ《レクイエム》、ベートーヴェン《交響曲第九番》、マーラー《交響曲第三番》《千人の交響曲》等に出演。東京芸術大学声楽科非常勤講師。二期会会員。



テノール 新海 康仁 Yasuhito Shinkai

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、および同大学院修士課程修了。二期会オペラ研究所第54期マスタークラス修了、修了時に最優秀賞及び川崎静子賞受賞。平成26年度文化庁新進芸術家海外研修制度でイタリア・カタニアに留学。07年《オテッロ》ロデリゴ役でデビューし、12年二期会ニューウェーブオペラ《スペイン時間》のゴンサルヴェ役で二期会デビュー、天性の美声と確かな存在感を示した。その後も二期会公演《マクベス》マルコム、《ホフマン物語》ナタナエルで出演。そのほか《ルーチョ・シツァ》タイトル・ロール、《ファルスタッフ》医師カイウス、《トゥーランドット》パンなどを演じるほか、ベートーヴェン《第九》、モーツァルト《レクイエム》、ヘンデル《メサイア》、メンデルスゾーン《聖パオロ》などのテノールソロを務めるなど活動の幅を広げている。これまでに声楽を鈴木博雅、近藤政伸、Giuseppe Costanzoの各氏に師事。二期会会員。



バス ジョン ハオ 鍾皓 Zhong Hao

中国沈陽出身。中国中央音楽学院卒業後、中国中央オペラハウスに入り《アイダ》エジプト国王、《フィガロの結婚》バルトロ、《セビリアの理髪師》バジーリオ、《魔笛》ザラストロなどを演じた。2005年来日、東京藝術大学大学院音楽研究科声楽(オペラ)専攻修士課程修了。在学中の07年に芸大創立120周年記念オペラ《ラ・ボエーム》コッリーネ役、芸大フィルハーモニー合唱公演《レクイエム》(小林研一郎指揮)においてソリストを務め脚光を浴びた。第38回イタリア声楽コンクールシエナ部門第1位シエナ大賞受賞。08年、シアターオペラ《イリス》に出演、指揮の井上道義から「どこに出しても恥ずかしくない本当のバスの声」と評された。同年5月、首相官邸にて開催された中国胡錦濤国家主席を迎えるための晩餐会で、日本と中国の歌を披露。10年、アンドレアス・ホモキ演出《ラ・ボエーム》コッリーネ、12年、二期会創立60周年記念オペラ公演《ナブッコ》ザッカーリア役出演。BSフジのトーク番組「レシビ・アン」に出演中。二期会会員。

演奏 長岡フェニックスオーケストラ

長岡、新潟にゆかりのある経験豊かな奏者たちによるプロ・アマ混合オーケストラ。今公演に合わせて組織された。大関博明氏をコンサートマスターに迎え、熱く繊細にそして質の高い音楽を目指し活動を展開していく。

〈大関博明プロフィール〉

長岡市出身。1972年国立音楽大学卒業。在学中に指揮者ジャン・フルネ氏のオランダ、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団への入団試験を受け合格、卒業後直ちに入団。その後75年ドイツ、マンハイム州立歌劇場管弦楽団、76年バンベルク交響楽団に入団。79年群馬交響楽団にコンサートマスターとして招かれ帰国。80年に始まった草津夏期国際音楽フェスティバルには第1回から参加し、多くの世界的アーティストと共演する。87年群馬交響楽団を退団し、同年より母校国立音楽大学で後進の指導にあたる。2015年まで国立音楽大学教授。2015年まで6年間東京芸術大学講師。豊田市ジュニアオーケストラ指導者、紀尾井シンフォニエッタ東京団友、澤カルテット。

合唱 長岡市民合唱団

1981年創立。85年《第一回“第九”演奏会》を長岡交響楽団と共催。長岡市制80周年記念事業・富田勲演出《信濃川“第九”》、サンフランシスコオペラセンター日米共同長岡公演《ラ・ボエーム》、信濃川文化推進事業越後オペラ《みるなの座敷》、二期会ニューイヤージョイントコンサート《カルメン》「椿姫」他、市民音楽祭、合唱祭等に数多く出演。90年より常任指揮者に船橋洋介氏を迎える。同氏指揮の下、97年仙台フィルハーモニー交響楽団を迎えた《カルミナ・ブラーナ長岡演奏会》、06年長岡市制100周年記念事業・メンデルスゾーン《讃歌》演奏会、02年と15年には東京フィルハーモニー交響楽団を迎えたヴェルディ《レクイエム》長岡演奏会を企画提案し、母体団体として好演、大成功を収める。ペーテルブノワ《HOOGMIS》(盛儀のミサ)、C. ジェンキンス《平和への道程》のいずれも日本初演を果たし音楽専門誌で紹介されるなど、斬新な視点・企画で長岡から発信し続ける合唱団として意欲的な活動を展開している。

※チケットのお申込みは表面の各プレイガイド及び長岡市民合唱団Webサイトにて承ります。

※誠に勝手ながら、未就学のお子様のご入場はご遠慮願います。

託児室(無料)を設置致します。事前下記Webサイトよりお申込み下さい。[対象:6か月~小学校3年生]

公演に関するお申込み・お問い合わせは

長岡市民合唱団

検索

<http://www.nagaoka-chorus.jp>